令和７年度小平市立小平第十五小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析	課題
全ての項目で全国平均を上回っていた。話すこと・聞くことは 78%、書くことに関しては 80.3%と高い正答率を記録した一方、読むことに関しては 66.8%と課題が残る結果となった。記述式の問題の無解答率が高くなる傾向があった。	「文章全体の構成を捉える」「要旨を把握する」「文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる」、これらの力に課題が残る。全体として「読むこと」に関する問題に課題があり、改善する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

新しい教材を学習する際に、文章全体の構成を確認する時間を必ず確保する。その際、どのような構成かを判断する際に、ポイントとなる言葉や内容を確かめる。国語以外の教科においても、図表から読み取ることができる項目を確認する時間を確保する。授業において定期的に振り返りや作文を作成する時間を確保し、記述力の育成を目指す。

【算数】

状況の分析	課題
ほとんどの問題で全国平均を上回っていたが、分数で全国平均を下回った問題があった。特に、1/2+2/3 の計算で 3.3 ポイント、数直線上のめもりを読み取る問題で１ポイント下回った。記述式の問題の無解答率が高くなる傾向もあった。	分数の足し算では「通分」という言葉は使えるが、もとにする数がいくつになるかは説明できなかった。数直線では分数ではなく小数で書く等、１を何等分しているか着目できていなかった。問題の一部にしか答えていないものも多かった。

学校で取り組む具体的な改善策

問題文を読み取る時間を大切にする。答えを見直し、聞かれていること全てに答えられているか確かめる習慣をつける。自力解決をする時間を確保し、グループや全体で自分の考えを交流しあう問題解決型の授業の展開を実施し、算数の用語を使って説明する力をつける。苦手な内容については、朝学習の時間を使い、ベーシックドリルやタブレットを使った問題演習を行って学力の定着を図る。

【理科】　　状況の分析

全体の正答率は全国平均を約 14%上回る結果となった。学習指導要領の領域で見ると、「生命」・「地球」の B 区分が正答率 70%以上であるのに対し、「エネルギー」・「粒子」の A 区分は正答率約 60%と、やや低い傾向となった。

課題

問題形式での分析結果から、短答式が正答率 84.2%であったが、記述式の正答率は、57.9%であった。理科の問題解決型の学習には、表現の力が不可欠であることから、記述式の問題にも対応できる、表現力の育成を図る必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

観察・実験を通して、「問題→仮説→検証→考察→結論」の流れを体験させ、科学的な探究のプロセスを重視した問題解決型の学習を実施する。また、図表や文章で多様な方法による表現活動を行い、自分の考えを明確に示す書き方の指導を重点的に行う。さらに、学習内容を生活や社会と関連付け、応用的な課題解決につながる学びを取り入れる。

【質問紙】　　状況の分析

生活習慣についての質問に対しては、概ね規則正しい生活を送られていることが分かった。算数の学力調査の結果は全国平均よりも高かったが、算数を苦手に感じている児童の割合は全国平均よりも高い。困ったことがあった際に大人に相談できるかどうかの質問に対し、否定的な回答をする児童の割合が約３０%いることが分かった。

課題

本校児童は、基本的な生活習慣や道徳心、規範意識等はしっかりと身に付いていることが分かる。一方、問題場面に遭遇した時の対処法や解決法等に課題が見られる。また、約半数の児童が算数の学習が得意ではなく、好きではないと考えており、これから先の「算数離れ・数学離れ」へと繋がる危険性がある。

学校で取り組む具体的な改善策

〇悩みや不安を抱えた時に、身近な大人に助けを求める行動を取れるようになる学習を行う。
・困った時は学校の先生、職員の方々がいつでも力になるということを日常的に指導する。
・学校にはＳＣが配置されていて、いつでも相談にのれる体制が整っていることを指導する。
・悩みを聞いてくれる関係諸機関が身近に複数あることを学期ごとに紹介する。
〇算数の学習の意義を知り、面白さを感じられるような授業づくりを行う。
・算数の学習において、「何を？」「どのように？」「なぜ？」の３つを大切にし、数学的な見方・考え方を身に付けさせる。
・児童にとって身近な題材を取り扱うことで、算数の学習が日常生活でも役立つものであることに気付かせる。